

は し が き

本報告書は、当研究所が平成 22～23 年の二年度にわたって行った研究事業「中国の対外援助研究会」の成果をまとめたものです。

中国はその急速な経済成長に伴い国際社会への影響力を増大させつつありますが、近年そうした中国の台頭は開発援助の分野にも及んでいます。中国はここ数年対外援助の活動を急速に活発化させており、そのことは国際援助社会に様々な影響を与えています。中国の対外援助は、OECD-DAC に加盟する伝統的ドナーによる開発援助とは理念や内容の面で大きく異なっており、とりわけそれが、政治体制に大きな問題を抱える非民主主義諸国も対象としている点、中国の資源獲得政策と直接結びついているように見受けられる点などは、国際社会の大きな関心と警戒心を呼び起こしています。ただし、こうした関心の高まりにもかかわらず中国の対外援助に関する情報と分析は明らかに欠如しており、そのことが疑念や警戒心を増幅させている側面もまた存在しているといえます。

他方で、中国の援助とかつての日本の ODA の間には、コンディショナリティに対する抑制的姿勢、金融部門よりも実物部門を重視する姿勢、インフラ建設、直接投資・輸出振興との相乗効果への関心など共通する部分があります。このことは、開発援助部の分野において日中が様々な局面で協力し合える可能性を示唆しているといえます。

以上の問題意識に基づき、本研究プロジェクトは、開発援助政策に通暁した日中両国の専門家の知的交流を積極的に進めながら、二年間にわたって調査・研究活動を行ってきました。ここに収められた各論文は、研究会委員による最終的な成果報告です。

ここに表明されている見解はすべて個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。しかし、このような成果が、日本の中国研究と開発援助研究に対して重要な知的資産を形成すると共に、わが国の対中政策および開発援助政策の実践に資することを心から期待するものであります。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

平成 24 年 3 月

財団法人日本国際問題研究所

理事長 野上 義二

研究体制

- 主査：** 下村 恭民 法政大学名誉教授
- 委員：** 稲田 十一 専修大学経済学部教授
- 大野 泉 政策研究大学院大学
国際開発戦略研究センター教授
- 大橋 英夫 専修大学経済学部教授
- 小林 誉明 国際協力機構研究所リサーチ・アソシエイト
- 鈴木 隆 愛知県立大学外国語学部専任講師
- 渡辺 紫乃 埼玉大学教養学部准教授
- 中国側研究協力者：**
- 王 平 広東外語外資大学博士研究員
- 委員兼幹事：** 角崎 信也 日本国際問題研究所研究員
- 担当助手：** 高澤 洋志 日本国際問題研究所研究助手

目 次

第一部 中国の対外援助のインパクト

第一章 中国の対外援助と国際援助社会

—伝統的ドナーとアフリカの視点から 大野泉 …… 1

第二章 中国援助に関する「通説」の再検討

—伝統ドナーからの乖離と途上国への開発効果 小林誉明 …… 21

第三章 中国の援助を評価する—アンゴラの事例

稲田十一 …… 35

第二部 中国の対外協力の特質

第四章 中国の非援助型対外経済協力—「対外経済合作」を中心に 大橋英夫 …… 63

第三部 対外援助に関する中国の視点

第五章 中国人研究者による日本のODAの研究 王平 …… 81

第六章 国際開発援助コミュニティに対する中国の「学習」状況と
その政治・外交的立ち位置について

—『国際経済合作』誌掲載論文の内容紹介に基づき 鈴木隆 …… 93

第七章 中国の対外援助をめぐる中国国内での最近の議論の動向 渡辺紫乃 …… 117

第四部 日本にとっての機会：「アジア型援助モデル」

第八章 中国の対外援助の台頭と日本の活路

—「代替案」としての「アジア型援助モデル」 下村恭民 …… 131

第五部 [資料] ワークショップ議事録

ワークショップ「中国の対外援助と日中協力の可能性」議事録 角崎信也 …… 147